# 入試までの学習計画表 解答解説

架空記入例・週間分数の確認・調整方法｜人間確認前の試験版

| | |
|---|---|
| **対象教科** | 5教科 |
| **対象単元** | 学習計画（入試日からの逆算・週次実行・振り返り） |
| **問題数** | 1問 |
| **目標時間** | 30分 |
| **難易度** | 基礎〜標準 |
| **公式確認日** | 2026-08-07 |

**重要：** 令和9年度の詳細な実施要綱・同細目は2026年9月公表予定です。公表後は日程・志望校の実施方法・検査教科・傾斜配点を必ず再確認し、学校行事や体調に合わせて計画を調整してください。

## 問題 1

令和9年度の公式日程と自分の最新の学習記録を使い、入試日までの計画を4期に分けて作りなさい。各期に到達目標・学習内容と量・確認方法を設け、そのうち1週間を曜日別の実行計画にしなさい。週末に実績を確認して翌週に調整する方法と、公式情報の次回確認日も書きなさい。

**正答：公式日程と確認日が記録され、4期それぞれの到達目標、学習内容・量、確認方法が現在の弱点と対応し、1週間の曜日別計画に予定分数と実行可能な余白があり、週末の実績・確認結果を根拠に翌週の優先順位や量を調整できる計画を正答とする。架空例では入試日を令和9年2月21日（日）とし、基礎整理・標準演習・過去問実戦・直前確認の4期に分け、1週440分の計画と週末調整欄を対応させる。**

### 考え方・手順

1. 公式日程と公式情報の確認日・次回確認日を書く。
2. 最新の過去問・模試・定期考査から、優先する教科・単元を3項目以内に絞る。
3. 入試までを4期に分け、各期の到達目標、学習内容・量、確認方法を書く。
4. 最初の1週間を、曜日、教科・単元、学習内容・量、予定分数、確認方法へ分解する。
5. 週末に実績と確認結果を記録し、未達の理由に合わせて翌週の優先順位・量・実施日を変える。
6. 新しい実施要綱・同細目や志望校情報が公表されたら、日程と計画を再確認する。

### 詳しい解説

長期目標だけでは、今日何をするかが決まらない。逆に曜日別の作業だけでは、入試日までに必要な弱点改善につながっているかが分からない。公式日程、長期の到達目標、週間の具体的な量、解き直しや小テストによる確認、実績に基づく調整を一続きにすることで、無理のない実行計画になる。予定未達は失敗ではなく、次の量と優先順位を変えるための記録として扱う。

都立入試ナビ

### 間違いやすい点

入試日を公式情報で確認しない、目標を「数学を頑張る」のように量なしで書く、得意教科だけを予定する、休養や学校行事を入れず毎日を埋める、実績が少ないと翌週にすべて上乗せする、勉強時間だけを記録して正答数や誤答原因を確認しない、自校作成問題と共通問題の対策を区分しない。

### 確認観点

公式日程・確認日が正しく記録されていること、4期の目標が現在の弱点と対応していること、各目標に学習内容・量・実施日・確認方法があること、1週間の予定分数が学校生活と休養を含めて実行可能であること、週末の実績・確認結果から翌週の調整につながることを確認する。

## 公式日程の確認

| 公式日程・確認事項 | 日付・時期 | 学習計画での扱い |
|---|---|---|
| 令和9年度実施要綱・同細目 | 2026年9月公表予定 | 公表後に日程・志望校の実施方法・検査教科・傾斜配点を再確認し、計画を更新する。 |
| 第一次募集及び分割前期募集の書類提出期間 | 令和9年1月29日（金）～2月4日（木） | 出願手続は学習計画と分け、中学校の先生・保護者と公式情報を確認する。 |
| 第一次募集及び分割前期募集の学力検査実施日 | 令和9年2月21日（日） | この日を長期計画の基準にし、直前期に新しい学習を詰め込み過ぎない。 |
| 第一次募集及び分割前期募集の合格発表日 | 令和9年3月1日（月） | 学習計画の終了日ではない。受検後の手続は学校と公式情報で確認する。 |

## 架空の記入例

以下は計画の作り方を確認するための架空例です。実在の受検者の計画ではありません。

| 期 | 期間 | 到達目標 | 学習内容・量 | 確認方法 | 実績・調整 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2026/8/10～9/30 | 基礎の穴を絞る | 数学の方程式を週30問、英単語を週100語、理社の誤答単元を週2項目解き直す | 週末テストと誤答原因記録 | 毎週末に調整 |
| 2 | 2026/10/1～11/30 | 標準問題で根拠を説明する | 英語長文週2題、国語記述週3問、理社資料問題週4問、数学関数・図形を交互に演習 | 正答だけでなく根拠を口頭で説明 | 2週ごとに優先単元を更新 |
| 3 | 2026/12/1～2027/1/31 | 実戦時間で弱点を減らす | 公式過去問を週1回分、翌日に誤答の解き直し、同じ原因の類題を週5問 | 時間配分・誤答原因・教科別推移を記録 | 体調と学校予定に合わせて実施日を変更 |
| 4 | 2027/2/1～2/20 | 正確さと生活リズムを安定させる | 誤答ノートの最優先項目、基礎問題、見直し手順を確認し、新しい難問は追加しない | 正答率、見直し漏れ、睡眠・起床時刻 | 入試前日は軽い確認と準備に限定 |

都立入試ナビ

## 架空の1週間記入例

| 曜日 | 日付 | 教科・単元 | 学習内容・量 | 予定分 | 確認・実績 |
|---|---|---|---|---|---|
| 月 | 8/10 | 数学・一次方程式 | 独自類題10問を解き、誤答は途中式から解き直す | 45 | 8問以上正解、代入で検算 |
| 火 | 8/11 | 英語・語彙 | 英単語25語を音読・意味・つづりの順で確認する | 45 | 翌日テスト20語以上 |
| 水 | 8/12 | 理科・化学反応式 | 基本事項の確認後、独自問題6問と解き直し2問 | 60 | 物質名と反応の対応を説明 |
| 木 | 8/13 | 国語・記述 | 独自の短文を読み、根拠箇所を示して50字記述2問 | 50 | 設問条件・根拠・字数を確認 |
| 金 | 8/14 | 社会・資料読み取り | 独自資料問題4問で数値・年代・因果の根拠に印を付ける | 60 | 根拠箇所を口頭で説明 |
| 土 | 8/15 | 数学・英語 | 週内の数学解き直しと英単語テス、未達問題を優先する | 120 | 同じ原因の誤答が減ったか |
| 日 | 8/16 | 5教科・週次振り返り | 実績分数と確認結果を記録し、翌週の優先順位と量を調整する | 60 | 翌週の計画を更新 |

予定分数合計：45 + 45 + 60 + 50 + 60 + 120 + 60 = 440分

### 振り返り例

・架空例：予定440分のうち実績は360分で、数学の方程式と英単語テスは目標に達した。

・架空例：理科の解き直しは学校行事で未実施だったため、翌週の木曜に2問だけ移し、新規問題数を6問から4問に減らす。

・架空例：数学は正解数が改善したが、社会の資料条件の読み落としが残ったため、翌週の最優先を社会資料問題に変更する。

## 人間確認が必要な事項

・2026年9月公表予定の令和9年度実施要綱・同細目と、日程の変更・訂正情報

・志望校が共通問題校か自校作成問題校か、入試区分・検査教科・傾斜配点・推薦受検の有無

・本人の最新の得点・誤答記録・学校行事・部活・睡眠・体調に合わせた計画量の妥当性

・架空記入例の内容・予定分数・合計・振り返りと解説の相互整合

・著作権・引用・表現と、過去問本文・公式表・画像を転載していないこと

・A4横向きの全ページ表示・実印刷・スマートフォン閲覧時の文字切れや重なり

公式情報確認日：2026-08-07

都立入試ナビ